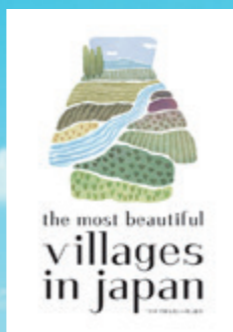


広報 ㊦  
No.718  
令和5年

# いいたて12



新しい作物へのチャレンジで農業を再開していたり、20行政区のそれぞれが「地域みがきあげ計画」を策定し伝統行事の伝承を具体的に計画していたり。景観づくりをはじめ、村民の皆さんの努力が認められた結果となっています。



「日本で最も美しい村」連合では、加盟町村の魅力伝える写真や動画、レシピなどのコンテストを開催しています。

「日本で最も美しい村」連合  
村食材活用レシピコンテスト2023

募集中

12/31  
締切

加盟町村地域の食材を活かしたレシピのコンテストです。

- ① 食材を入手してレシピを作成。
- ② 募集サイトから応募。※必要事項を入力し、食材の写真と完成した料理の写真をアップロードします。(一次審査)



募集サイト

令和3年の第1回レシピコンテストで見事入選した菅野クニさん(宮内)の「ナツハゼの赤飯」。



「日本で最も美しい村まつり2023 in TOKYO TORCH」。10月に東京都で開催され村も出展。物産などをPR。



村まつりの一環で開催された「日本で最も美しい村マルシェ」。各町村の特産品や観光情報が並びました。

「日本で最も美しい村」連合は、「フランスの最も美しい村」運動を手本とし平成17年に任意団体として発足。翌18年に特定非営利活動法人(NPO法人)となりました。かけがえのない地域資源や美しい景観を有する町村が、誇りを持って地域づくりを行うことにより、農山漁村の文化や景観を保

護し価値を高め、さらには「美しい村」が自立・存続していくことを目指しています。飯館村は、東日本大震災の前年にあたる平成22年に加盟が認められました。加盟には、資格基準に基づく審査に合格することが必要で、加盟後も概ね5年ごとに再審査が行われます。震災の影響により延期されていた飯館村

の再審査は今年9月に実施され、10月下旬に審査通過の一報が届きました。11月現在の加盟数は全国59町村。また、数多くの企業が会員・準会員となり活動をサポートしています。加盟町村は交流を通して知見や経験を共有し、地域資源の価値の向上や、連携した発信に取り組んでいます。

NPO法人「日本で最も美しい村」連合  
飯館村再審査(10年目審査)について

審査は9月28日・29日に村内で行われ、資格審査委員会、理事会を経て、「審査通過」が決定しました。

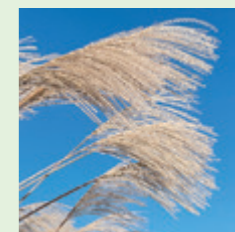
加盟前提

- 連合加盟村にふさわしい景観を持っている。
- 連合加盟村にふさわしい魅力的な地域資源を有している。

景観については「回復の途上」としつつも、「村外から通って自宅周辺の美化清掃をする住民もあり景観維持の意識が高い」と評価されました。また「地域の価値を高め発展させる努力」など、連合と方向性が一致する行政の長期ビジョンも評価されました。前を向く村民のさまざまな営みについては、「根底に“までの心”があり、その継承が今日の飯館村をつくっていると感じた」とコメントがあり、高く評価されました。

飯館村は「日本で最も美しい村」連合の加盟村です

加盟の再審査をクリアしました



ふんわり揺れる  
冬枯れのスキ

目次 CONTENTS

- 02 話題「『日本で最も美しい村』連合」
- 04 特集1「寒い季節もEnjoy!いいたて」
- 12 学びの広場「上下水道施設見学」ほか
- 13 農政のページ「意見交換会」ほか
- 14 特集2「ふくしま駅伝」
- 16 空から百景「真野川渓谷」
- 18 ほけんとふくし「むし歯0の子表彰式」ほか
- 20 ほけんとふくし「高齢者体力測定」ほか
- 22 いいたて便り
- 24 話題のパレット
- 26 村からおしらせ
- 28 いいたてイノサル通信
- 29 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 30 いいたてDIARY／村民広報委員コラム
- 31 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 32 ほっとNEWS／写真募集のお知らせ

📷 今月の表紙



「ふかや風の子広場」にイルミネーションが灯りました。点灯式が行われた11月25日は、本格的な冬の到来を思わせる厳しい寒さになりましたが、たくさんのご家族が会場を訪れ、7回目となる光のイベントの開幕を楽しみました。イルミネーションは1月14日までの期間、午後4時から9時まで点灯されません。P4の関連記事もご覧ください。

村はイベントや取り組みを取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613 までお知らせください。

寒い季節も

エンジョイ

# Enjoy!

## いいたて

秋冬のイベントの  
心温まるシーンを  
コレクション

いいたて冬まつり  
いいたて冬の花火

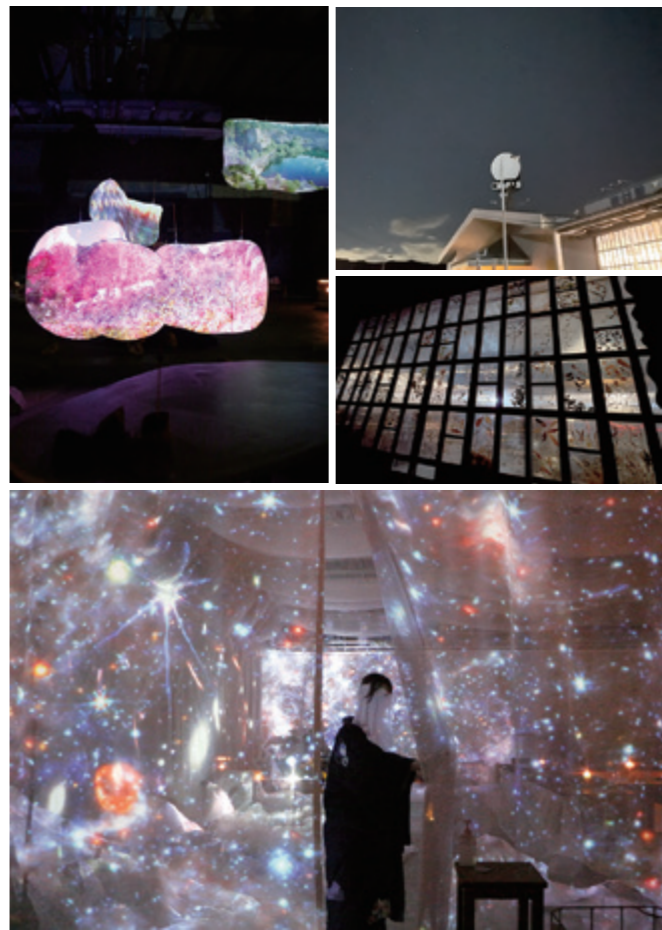
11月25日、飯館村商工会による『いいたて冬まつり』が開催されました。交流センター「ふれ愛館」ではクリスマスにちなんだワークショップ。「いいたて村の道の駅までい館」では「第2回飯館ジャズフェスティバル」、イルミネーションイベントの点灯式が行われました。「ふかや風の子広場」を彩るイルミネーションは、復興の足元を照らす光となることを願い、村商工会青年部が企画・設営を始めたもので、今年で7回目。今シーズンは、令和6年1月14日まで、毎日午後4時から9時まで点灯されます(天候による中止あり)。広場一帯を輝かせる幻想的で温かな光の景色を、ぜひ現地でもお楽しみください。

同日、広場内の「ひみつ基地どきどき」では、キャンドルイベントも開催されました。また、点灯式に続いて打ち上げられた『いいたて冬の花火』には、村商工会の会員をはじめ数多くの事業者が協賛。光と笑顔に包まれて、特別な冬の1日が過ぎていきました。



11月、図図倉庫で、シアター&レストラン「ヒカリノトリ」が上演されました。企画・構成は、実験的な鑑賞体験を創造する演出家の野宮有姫さん。現代アーティストや音楽家のパフォーマンス、「田舎レストラン」ラカッセ「オーナーシエフ・佐藤雄紀さん（一枚橋・須萱）の料理などが一体となって、図図倉庫を舞台に、環境世界の旅を表現しました。期間限定の10公演で、各回10人定員のチケットはほぼ完売。遠方からもさまざまな世

代の観客が訪れていました。観客は「観測者」として、演者の言葉に導かれ旅に出ます。詩や著書の一節などを記した紙片が途上に散りばめられていて、観測者は心に触れた言葉を手に取り集めていきます。そして、照明、映像、言葉、音楽、展示など、空間を満たすすべての表現を通して、身近な自然の営みや宇宙の存在に思いを馳せ、やがて自身の思いやルーツにも心が旅する特別な体験を味わいました。



合同会社MARBLING（マープリング）が「環境づくりの自由研究秘密基地」としてプロジェクトを展開する「図図倉庫」が丸ごとシアターに。いくつもの場面を彷徨（さまよ）い、観客が物語の一部となって表現を受け止める鑑賞体験は新鮮。



“自らが存在する時空を観測する旅”において、言葉や音楽や映像などはすべて“資料”と呼ばれていました。コース仕立ての料理もまた“資料”です。例えばローストビーフは牛が食べる穀類や豆を内包しビーフコンソメをまとって大地の営みを表現しています。飯館村の風土を表す仕掛けと味わいに、観測者は感嘆。



いいたて織里音  
復興ふれあいコンサート「喜びの二歩」



上の写真は「楽しく!コーラス」(奈良県/後列)と共演したステージ。手前の白いピアノ『織里音』が、合唱団の名前の由来になっています。有志による「ふるさといいたて織里音の会」が、「村でもっと音楽に触れる機会を」と寄附を募り、平成5年に公民館に寄贈したピアノです。この日、合唱団「いいたて織里音」と共に、ふるさとを音楽で彩りました。

混声合唱団「いいたて織里音」が、11月19日、交流センター「ふれ愛館」で、復興ふれあいコンサート「喜びの二歩」を開きました。佐藤将樹会長(関根松塚)がプログラムに「帰村の喜びとさらなる復興への願いを込めてふるさとにちなんだ曲を演奏します」と記していたように、第1ステージは、メンバーの菅野允子さん(佐須)が作詞した「がんばっぺ、ままだいな村」(河合撰子作曲)で開幕。避難中の村の子ども達に贈られ歌われた「ときよめぐれ(まどいの Rond)」(山根明季子作曲)は、作

詞を手がけた伊武トーマさんと共に歌唱しました。また、第2ステージには、震災後の交流が続く奈良県の『楽しく!コーラス』と、オカリナグループ「ライリツ シュ・オカリナ トウインクル飯館」が賛助出演。第3ステージでは、『いいたて織里音』が、合唱曲からポップスマで、多彩な楽曲を披露しました。そして全員合唱でフィナーレを迎えたコンサート。閉幕後、「歌声に励まされた。明日からまた頑張ろう」「音楽での交流。うれしいね」と観客が笑顔を交わしていました。





ポクポクしっとり、やさしい甘みと豊かな風味が自慢です。

いいたて雪っ娘かぼちや祭り



いいたて高原新そばまつり

「いいたて雪っ娘かぼちやプロジェクト協議会」(渡邊とみ子会長／前田・八和木)が、11月23日、「いいたて村の道の駅までい館」で、『第3回いいたて雪っ娘かぼちや祭り』を開催しました。村内・県内はもとより北海道から九州まで、各地から生産者や雪っ娘ファンが会場へ。育種者の菅野元二さん(宮内)による品評会、雪っ娘を使った『アイデア料理コンテスト』の審査会などを、皆で楽しみました。

品評会では、その場で糖度や乾物率を測定し、ランキングを公表。金賞は「東峰村えんぷロシエクトの会」(福岡県)の雪っ娘が獲得しました。同会の生産者・和田晴輝さんは、豪雨災害で被災した皆さんと共に、遊休地で雪っ娘を栽培しています。和田さんのように、とみ子さんとの出会い、雪っ娘との出会いに心を動かされ、さまざま縁でつながった方々が、会場に集い親交を深めていました。

雪っ娘や加工品の即売会も行われ、一般の来場者が対話を楽しみながら買い求めていました。3年目の「雪っ娘祭り」は、関わる人の笑顔が印象的な催しとなりました。

11月18日・19日の2日間、「いいたて村の道の駅までい館」で、「いいたて高原新そばまつり」が開催されました。蕎麦打ちの実演を行うのは「いいたて愚真会」(佐藤峯夫会長／宮内)の皆さん。この機会に打ち立ての新蕎麦を味わおうと、待ちかねた人が次々に会場を訪れ蕎麦を購入しました。

寒暖差が大きい気候を生かして栽培される食味豊かな飯館産の蕎麦。今年の「新そばまつり」には、飯館地区で蕎麦を栽培する高橋英明さん(上飯樋)が、催しを応援しようと蕎麦を提供しました。

また、道の駅のレストランで人気の蕎麦メニューには、通常から「いいたて愚真会」の手打ち蕎麦が使用されています。「前田明神そば」の新蕎麦に、飯館産エゴマの香ばしいたれを合わせた「えごませいろ」は季節の逸品。この日も人気を集めていました。



会の一員、松原光年さん(小宮)の筆字で「新そば」をお知らせ。



本所ゼミは、メニューの開発やイベント開催などで継続的に雪っ娘の魅力を発信しています。

いいたて雪っ娘アイデア料理コンテストの入賞作品。



明治大学本所ゼミの学生が考案したレシピも入賞。「雪っ娘のおいしさをもっと広めたい」。



金賞を獲得した和田さん(左)。福岡県から駆け付け、とみ子さんと笑顔の再会。



いいたて愚真会



平成7年に結成された蕎麦打ちの会。新たに参加したメンバーも、ベテランに交じって楽しく腕を磨いています。写真は1日目の蕎麦打ちメンバー。



# いいたてっ子発表会「赤蜻祭」

今年のテーマは「心をもやし、想いをつなぐ」。ふるさとそして仲間へ寄せる想いが、観る人の心に響く発表会でした。

伝統をつなぎ心を燃やす、熱い想いは届きましたか。これからも挑戦を続けます。応援してください。

自然が豊かで、動物達が助け合って生きてきたふるさとが好きた。帰るよ、ふるさとに。ぼくがやらなきゃ、誰がやる！

どこに行っても、どこに行っても、私達の飯館、私達のふるさと。思い続けること、つながっていく。



プログラム  
いいたて元気太鼓(3~6年) 小宮の田植え踊り(7~9年) 劇「スイミー」(1・2年) 「いいたて学」発表(7~9年)  
歌・合奏「輝きパレットコンサート」(3・4年) 劇「ライオン・キング」(5・6年) 特設ダンス部発表 全校合唱「ふるさと」 メイキング映像上映(特設メディア部)

まていの里のこども園ニュース & いたて希望の里学園ニュース

### 農業委員会と農業者(水稲)の意見交換会

#### 生産農家と関係者が一堂に

11月13日、いたて活性化センター「いちばん館」で、飯館村農業委員会主催の『令和5年度農業者との意見交換会』が開催されました。昨年の花卉農家との意見交換会に続く2回目の開催で、今回は水稲生産農家を交えての意見交換となりました。

第1部では、相双農林事務所、JAふくしま未来飯館営農センター、村産業振興課から、補助事業や今般の米穀情勢について情報を共有。令和5年産米の相対取引価格の現状、同米の水稲作付面積と予想収穫量なども報告されました。

第2部では、「資材等高騰が農業経営に及ぼす影響と対応策」などをテーマに杉岡村長を交えて意見交換を行いました。圃場整備後の営農や情報通信網の整備など、様々な視点から課題が挙げられ、杉岡村長との具体的な議論が行われました。



10月31日、まていの里のこども園の園児が、手作りの衣装や小物でバッチリ仮装し、『ハロウィンパレード』で村役場に来てくれました。「トリック・オア・トリート!お菓子をくれないとイタズラしちゃうぞ!」と声を合わせて元気にパレード。イタネちゃんとお会ったり、ハロウィンのダンスを披露したり、お菓子もたくさんいただきました。

### ハロウィンパレード



### フルオーケストラの音楽鑑賞会



11月2日、山形交響楽団を迎え、いたて希望の里学園で音楽鑑賞会が開かれました。クラシックの名曲やアニメ映画の挿入曲を鑑賞した他、演奏をバックに歌ったり、指揮を体験したり、充実した鑑賞会となりました。大島輝琉さんが「動画で聴く時とは全く違う感動があり、オーケストラに関心がわきました」と感謝を伝えました。

### ユナイテッド福島FCサッカー教室



10月31日、前期課程4～6年生を対象に、福島ユナイテッドFCによる特別出前授業が行われました。ボールを使ったゲームやパス・シュート練習などをこなし、4チームに分かれて試合を行いました。児童は終始笑顔で、コーチを務めた選手の皆さんとも距離が縮まり、最後は仲良くハイタッチ。貴重な時間を楽しんでいました。

### 「あぶくまもち」のおむすび限定販売



11月21日、発売を前にあぶくまもち生産組合の青田豊実組合長(前田/前列中央)らが新聞社でおむすびをお披露目。写真は福島民報社。

11月28日から、飯館村及び中通り地方のセブンイレブン282店舗で、令和5年飯館村産あぶくまもちを使用しおむすび「赤飯おこわ」と「舞茸入り五目おこわ」が販売されています。あぶくまもちは全国で唯一、飯館村で生産されているもち米。初めて商品化された昨年は、約4万個のおむすびが8日間で完売しました。今年は販売エリアを拡大し、昨年の5倍にあたる約20万個を販売します。生産者を始めとする多くの関係者の想いをのせ、あぶくまもちの新たなストーリーが紡がれています。▼もちもち食感をぜひ味わってください。イタネちゃんのパッケージが目印です。

### 福島大学食農学類 中間報告会



報告会は、福島大学と村役場をオンラインで結んで行われました。

11月10日、福島大学食農学類・飯館村フィールドの学生が、今年度の活動の中間報告を行いました。村からは村山総務課長、三瓶産業振興課長、担当職員らが出席しました。学生らは「飯館村の地域資源を生かした賑わいづくり」をテーマに、村の知名度向上や魅力発信等を目標に掲げ、「イータベイク」と「あぶくまもち」にスポットを当て活動しています。8月に村内で開催したイータベイクのPRイベント「真夏の宝探し」の他、10月の大学祭で「まていフェア」を催しアンケートを行うなど、特産品化に向けたPR活動に取り組んできたことなどを報告しました。

### 4年生が上下水道施設を見学



11月16日、いたて希望の里学園の4年生が、滝下浄水場と飯樋処理場を見学しました。浄水場では役場の担当職員が、簡易水道の水がどのようにつくられるかを説明。「どこから水が来ていますか」「震災の被害はありましたか」など児童の質問にも答えました。児童は感想を話したり写真を撮ったりしながら熱心に見学していました。

### 3歳以上児が『七五三参り』



11月15日、まていの里のこども園の3歳以上児が、綿津見神社で『七五三参り』をしました。清々しい青空の下、自分でつくった千歳飴の袋を手に神社を訪れ、宮司の多田仁彦さん(宮内)から七五三の行事の意味や参拝の仕方を教わり、小さな手を合わせ、心を込めてお参りしました。

特集2

# ふくしま駅伝

## 第35回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会 〈ふくしま駅伝〉チームメンバー※敬称略

- 総監督 林 英滋
- 監督 佐藤 彰洋(消防飯舘分署)
- コーチ 荒 高史(いいたて希望の里学園)
- コーチ 永井 努(いいたて希望の里学園)
- 主将 大内 龍太郎(飯舘村社会福祉協議会)
- 8区 大島 輝琉(いいたて希望の里学園8年)
- 9区 齋藤 あおい(西袋中3年)
- 10区 三浦 有矢(いいたて希望の里学園)
- 11区 遠藤 志織(飯舘村役場)
- 12区 細杉 睦輝(IRC)
- 13区 佐藤 彰洋(消防飯舘分署)
- 14区 杉岡 響(いいたて希望の里学園9年)
- 15区 三本松 里奈(いいたて希望の里学園8年)
- 16区 大内 龍太郎(飯舘村社会福祉協議会)
- 補欠 荒 高史(いいたて希望の里学園)
- 補欠 大友 千絵(いいたて希望の里学園)
- 補欠 佐藤 賢二(JAふくしま未来)
- 補欠 大内 匡泰(菊池製作所)

ランナーの誇り、揺るぎない向上心  
チームのコメントから

8区・大島選手「今の力を出し切ることができた」 9区・齋藤選手「3年間走らせていただき貴重な経験になった」 10区・三浦選手「皆さんが心の支えになり自己ベストを出すことができた」 11区・遠藤選手「村のために選手として走りたいと思ひ練習してきた成果が目標達成につながった」 12区・細杉選手「来年もこのチームで頑張りたい」 13区・佐藤監督「皆さんの協力に感謝。立けるのは一生懸命取り組んだ証」 14区・杉岡選手「目標を大幅に更新し、感動を分かち合えてうれし」 15区・三本松選手「楽しく走ることができた。来年も先輩を見習って頑張りたい」 16区・大内主将「思うような結果が出せず今までで一番悔しいレースだった。悔しさを糧に原点に戻って頑張りたい」



熱い想いが伝わる力走。感動をありがとう!

11月19日、ふくしま駅伝(第35回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会)が、「しらかわカタルススポーツパーク(白河市総合運動公園)陸上競技場」をスタート、福島県庁前をゴールに開催されました。

飯舘村チームは、郡山市内の第8区から、後半の9区間にエントリーしました。チームとしては順位がつかないオープン参加となりましたが、飯舘村チームとして、第1回大会から35回連続の出場を果たし、一丸となって伝統のタスキをつなぎました。

大会前のインタビューで「飯舘村の『走る文化』を大切にしたい。現在の環境にあっても、選手には楽しんで走ってほしい」と話していた佐藤彰洋監督。解団式では「オープン参加はぎりぎりまで悩みました。何が正解かは今でも分かりませんが、チームの頑張りに救われました」と振り返り、「戦えるチーム、勝てるチーム、飯舘

村を背負うことに価値を見出せるチームにしたい」とつないだタスキの未来を語りました。

「来年も走りたい」「このチームに参加したい」と多くの選手が語る姿からも、飯舘村チームの団結力や想いの深さを感じることができました。素晴らしいチームです。

今大会に向けては、一人ひとりが目標を持ち、地道な練習に取り組みました。また、村内にいるメンバーは、時間を工面して「いいたてスポーツ公園」に集まり、週2回のチーム練習も継続しました。練習を重ねる走力を上げて臨んだ大会。当日は風が吹く中でのレースとなりましたが、全選手が強い気持ちで前向きに、快走を繰り広げました。

テレビやラジオ、YouTubeなどの実況も、飯舘村の想いに触れ、たくさんの方の応援を送ってくれました。飯舘村の『走る文化』は確かな輝きを放っています。



10区 三浦有矢 選手



9区 齋藤あおい 選手



8区 大島輝琉 選手  
こうりゅう



13区 佐藤彰洋 監督



12区 細杉睦輝 選手  
むつき



11区 遠藤志織 選手



16区 大内龍太郎 主将



15区 三本松里奈 選手



14区 杉岡響 選手





空から  
百景

真野川溪谷

四季を通じて豊かな自然を体感できる『真野川溪谷』。紅葉が進んだ晩秋の景色を撮影しました。佐須行政区の前乗地区から大倉行政区のはやま湖に通じる村道佐須大倉線が溪谷に並走しています。道路の災害復旧工事が続いていて、残念ながら現在も通り抜けができませんが、佐須方面からは写真右下の堰堤橋(えんていはし)まで通行できます。

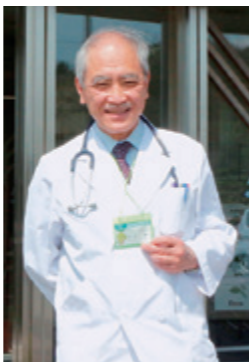
本田先生に聴く

うた  
こころとからだといのちの詩

第9回 歯と口の健康のために

いいたてクリニック 本田 徹 先生

毎年飯館村では、「むし歯0の子表彰式」が行われていますが、とてもすばらしい催しだと思えます。原発事故後の避難で、親御さんも生活の再建に追われたりしたせいか、福島県は少なくとも数年前まで、子どものむし歯保有率は、全国都道府県のワースト何位という、かんばしくない成績でした。それで思い出すのは、カンボジアで母子保健の活動をしていたとき、親が都会に出稼ぎに行き、祖父母が孫の養育をしている家庭では、菓子などを与えすぎて、むし歯を作る割合が高くなり、大きな問題となっていたことです。



一方、高齢者では、有名な「8020運動」がいまも歯科医師会などで推奨されています。百歳を越えたある在宅療養の女性が、ほぼ完全に自身の下顎の歯を保っており、長寿のヒミツなのかと感嘆したこともあります。

歯周病は今や、国民病の一つと言える課題になっています。糖尿病などの生活習慣病が増えたことも一因です。高齢により唾液分泌が減り、口腔内にミュータンス菌と呼ばれる病原菌などが繁殖し、歯や歯肉がおかされ歯周病や歯の脱落を招くとされています。脳内にもこうした菌が、微小出血などの病変を引き起こすという説があります。残存歯数と認知症の間には、明らかな相関があるといった研究成果も出ています。老人に多い誤嚥性肺炎の誘因ともなります。歯の健康を保つことは、体や脳の健康維持にもつながります。子どもから高齢者まで、歯を大切に毎日歯を過ごしましょう。

みんなおいでよ!飯館村子育て支援センター

所在地:飯館村飯樋字町483番地

今年の「むし歯0の子表彰式」が行われた「子育て支援センター」は、元々平成23年4月に開所が予定されていた施設です。震災の影響により開所を延期しておりましたが、12年を経て、子育て中の方に利用いただける場が、飯館村にオープンしました。施設内の様子をご紹介します。

健康福祉課福祉係 ☎0244-42-1633



木製のボールプール

全村避難中に福島市で開設した、村の子育て支援センター「すくすく」で使われていたものです。



木製大型すべり台

玄関を入ると真正面に現れます。木製で滑りがとても良いです。順番を守って気をつけて遊んでね。



児童書コーナー

大型絵本

絵本もたくさん並んでいます。読み聞かせ用の大型絵本も!ぜひ読んでみてね。



開放日のお知らせ

1月にセンターの開放を予定しています。詳しくはお知らせ版をご覧ください。

飯館村は子ども・子育て支援事業に力を入れています

例えば…〈飯館村赤ちゃん誕生祝金〉〈子育て応援支援金〉は、令和5年4月1日にスタートした村独自の子ども・子育て支援事業。赤ちゃん誕生から高校入学まで、子育て世帯を手厚く支援します。詳しくは右のQRコードから。



子育て支援センターで

むし歯0の子表彰式



10月29日、「むし歯0の子表彰式」を行いました。村が毎年行っている表彰式で、今回は、令和4年度の3才5か月児健康診査で、むし歯が1本もなかったお子さんを表彰しました。

今年の会場は、7月に運用を開始した「飯館村子育て支援センター」。子ども達はセンターに入ると、大きなすべり台や木製ボールプールなどで、さっそく楽しそうに遊んでいました。

また、今年のメダルは写真入れ付きのキーホルダーになる特別仕様。サプライズで登場したイイタネちゃんから歯ブラシがプレゼントされたり、親子でお菓子入りを制作したりと、楽しい時間を過ごしました。



名前	性別	行政区	名前	性別	行政区
仁科 陽太	男	佐須	千葉 心結	女	草野
大渡 心葵	女	草野	齋藤 旭	男	深谷
菅野 海花	女	佐須	庄司 晃翔	男	長泥
丹治 煌翔	男	宮内	鹿山 和真	男	深谷
井上 朝陽	女	大久保・外内	長正 桜空	男	草野
庄司 光希	男	関沢	高橋 芽依	女	二枚橋・須萱
安齋 響紀	男	大久保・外内	遠藤 心都	女	前田・八和木

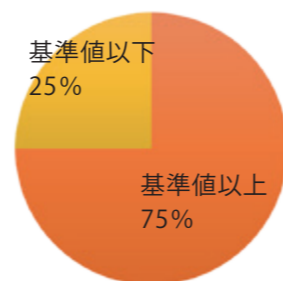
※お名前は左上から生年月日順です。

体力測定の結果 今回実施した体力測定の実験結果をお知らせします。平均値は今回の参加者の平均です。

① 握力



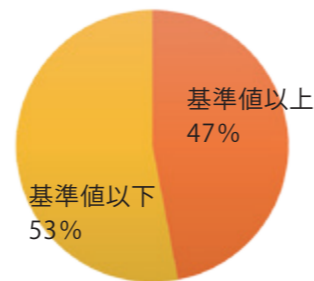
男性 平均値 30.8kg (基準値 28.0kg)  
 女性 平均値 19.9kg (基準値 18.0kg)  
 基準値より握力が強い結果の方が75%と、半数以上の方は筋力が維持されていました。  
 ★サルコペニア(主に加齢により全身の筋肉量と筋力が自然低下し、身体能力が低下した状態)の診断基準です。



② 開眼片足立ち



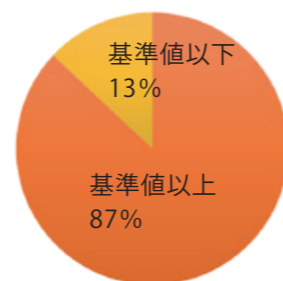
平均値 16.6秒 (基準値 15.0秒)  
 基準時間まで立ってられない方が53%を占めました。バランス能力の低い方が多いと考えられます。  
 ★運動器不安定症の評価基準です。



③ タイムドアップ&ゴー



椅子から立ち上がり、通常で歩速で歩き、椅子に座るまでのタイムを測ります。  
 平均値 9.1秒 (基準値 11.0秒)  
 基準時間より早い方が87%でした。立ち上がる時や座る時の動作が安定している方が多いと考えられます。  
 ★運動器不安定症の評価基準です。



④ 5m歩行



助走を付けて、少し早歩きで5mを歩きます。  
 平均値 3.0秒 (基準値 6.2秒)  
 参加者全員が、基準時間より早く歩いています。歩く動作は安定していると考えられます。  
 ★6.2秒以上で転倒リスクが高くなるとされています。



⑤ TMT検査(トレイルメイキングテスト) 検査用紙にランダムに書かれた数字を1から25まで一筆書きで結び、そのタイムを測ります。



今回の測定の平均値 78.1秒  
 (年代別平均値 60歳代 34.9秒/70歳代 46.5秒/80歳代 51.1秒)  
 ★「注意の持続性と選択性」「視覚-運動の協調性」「情報処理の迅速さ」の3つの基準となります。

11月1日、飯館村地域防災センターで、『令和5年度飯館村老人クラブ連合会健康づくり会員交流会』が開催されました。昨年の村民防災研修交流会に続く2回目の開催で、約50人の会員が参加しました。

午前中は、村健康福祉課の職員から、「冬場に気をつけてほしいこと」や「尿中塩分測定について」など、健康に過ごすために身体を守る対策を教わりました。

その後はグラウンドに移動し、5班に分かれて「ホールインワンゲーム」が行われました。チャレンジは1回6球。見事一発で決める方や何度も諦めずにチャレンジして決める方など、結果は様々でしたが、マスクの下はみんな笑顔。ゲームは大盛り上がりでした。見事全員がホールインワンを達成し、賞品をゲットしました。

お昼は、災害時の訓練を兼ねた飯館村赤十字奉仕団による炊き出しの防災食を昼食に、杉岡村長も参加し、たくさんの会話を通して交流を深めました。

午後は、福島県立医科大学保健科学部の学生による体力測定が行われました。学生からの説明やサポートを受け、片足立ちや5m歩行など5種類のメニューをこなしました。

健康福祉課からのお知らせ ～冬場に気をつけてほしいこと～



福島県は、心筋梗塞で亡くなる方が全国で1番多いというデータがあり、飯館村の男性については県の平均値よりさらに多いとされています。

寒さが厳しくなる冬は気温が下がり、急激な温度変化により血圧が大きく変動する「ヒートショック」に注意が必要です。特に入浴時はヒートショックの危険性が高くなるため、「脱衣所を暖めておく」「入浴前に家族に声をかける」などの対策をしましょう。

消防飯館分署でも注意を呼びかけています。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

多彩なプログラムで交流



白熱のホールインワンゲーム。



防災食を食べて交流しました。

お湯に浸して白米が炊ける「災害救助用炊飯袋」。



県立医科大学の皆さんも加わり交流のひとつときを楽しみました。体力測定の実施と結果については左のページをご覧ください。



質問コーナーでは、さまざまな植物の育て方にも話題が及び、参加者と先生との対話が和やかに続きました。

## 樹木医・鈴木俊行先生の『クリスマスの寄せ植え教室』

11月9日、交流センター「ふれ愛館」で、生涯学習講座『クリスマスの寄せ植え教室』を開催しました。講師は、樹木医の鈴木俊行先生です。15人が受講し、クリスマスホーリー、ゴシキヒイラギ、ガーデンシクラメンなどを鉢に植え込む“クリスマスの寄せ植え”に挑戦しました。鈴木先生は、使用する土や植物の特徴を楽しいトークで伝授。参加者はレイアウトに工夫を凝らし、それぞれに素敵な寄せ植えを完成させました。



## R 399沿線自治体連絡協議会 長泥地区で景観向上活動

10月27日、「国道399号あぶくまロマンチック街道沿線自治体連絡協議会」が、長泥地区で「景観向上活動」を行いました。当日は協議会のメンバーの他、福島県ふたば復興事務所からも参加があり、14人が長泥コミュニティーセンターに集合。村職員から地区の現状について聞き、事前に行行政区に相談して決めた2か所の草刈りや除草を行いました。今年2月に発足した同協議会の「景観向上活動」の実施は今回が初めて。長泥地区を「沿線の花の見所」として活動場所に選んでいただきました。



コミュニティーセンター沿いの法面は草刈り機で、峠の展望台は手刈りで丁寧に除草していただきました。



写真は11月13日の教室の様子。スマホの活用方法が学べる他、スタッフが参加者の疑問に答えます。

## 総務省デジタル活用支援推進事業 スマートフォン教室を開催中

交流センター「ふれ愛館」で、『スマートフォン教室』が開催されています。この教室は、9月に終了した「イタネちゃんお知らせアプリ交流会」を運営していたテクノマインド株式会社が、総務省の事業を活用し、来年2月までの全9回で実施しています。各回12人定員で、テーマが設けてあるので、詳しくは全戸配付のチラシでご確認ください。こちらのQRコードからもご覧いただけます。電話でのお申し込みは村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613まで。



## バランスのよい食事をとろう！ からだを整える栄養教室

11月6日・7日、交流センター「ふれ愛館」で、栄養教室『からだを整える！ バランス食教室』を開催しました。教室では栄養士がバランスよく食べることの大切さを伝え、1日分の食事の目安を模型などで説明。献立の一例として、「豚肉と野菜の甘酢炒め」「ホウレンソウの海苔あえ」「具だくさん味噌汁」「季節のフルーツヨーグルトソース」などを、参加者が協力して調理しました。テーブルには彩り豊かな料理が並び、参加者が「食材の組み合わせが新鮮」「参考になるね」と会話を弾ませました。



“男性参加・1人参加・夫婦参加・友達参加”いずれも大歓迎！ 調理は見学でもOKというアットホームな教室。



「ゲートキーパー」とは、死を考えている人に出会った時、悩みに気づき、支援につなげる人のことです。

## 身近な人の悩みに寄り添う ゲートキーパー養成講座

11月16日、いちばん館で、『令和5年度ゲートキーパー養成講座』を開催しました。講師を務めた臨床心理士・公認心理師の高橋紀子先生は、震災後、県内を中心に心の支援に尽力されてきました。今回の講演では、「死にたい気持ちを受け止め、支援する」をテーマに、再現動画などを通して、ゲートキーパーとしての心得、自殺の危険を判断するポイントなどを学びました。また、質疑応答では参加者の質問に対し、高橋先生が自身の体験を踏まえて回答しました。最後には参加者全員に修了証が渡されました。

## F-REI (福島国際研究教育機構) 座談会が行われました

令和5年4月に国が設立したF-REI(福島国際研究教育機構)の代表や関係者が、11月6日、村を視察し、村役場で座談会を開催しました。F-REIは、技術の研究と社会実装・産業化、人材育成などに取り組む機関。「創造的復興の中核拠点」として、浜通りをはじめとする地域の発展・振興にも取り組みます。座談会には杉岡村長と共に、商工会・森林組合・農家の皆さんなどが出席し、それぞれの取り組みや直面している課題、技術革新への期待などを語りました。



質問に答えるF-REIの山崎光悦理事長(奥中央)。各分野の技術革新の現状などを説明し対話を深めました。



### マルナカ株式会社から融雪剤の寄贈

11月20日、マルナカ株式会社から村へ融雪剤120袋を寄贈していただきました。交流センター「ふれ愛館」で行われた贈呈式には、同社の遊佐憲治取締役副社長、長正増夫行政区長会長、杉岡村長らが出席しました。同社には、これまで5年間にわたり、環境省が発注する村内仮置き場の除草工事を通して、村の環境保全にご尽力をいただいています。「冬期の村民の皆様の一助になれば」と昨年が続く2度目の寄贈をいただきました。



審判員の服装に身を包んだ菅野さん。審判を務める際には団体で制定するネクタイやバッジなどを着用します。

### 陸上公認審判員で活躍!菅野清さん

福島陸上競技協会で監事を務める菅野清さん(草野)。日本陸上競技連盟の公認審判員として、11月に福島市で開催される「東日本女子駅伝」など、さまざまな大会で審判を務めています。30年以上の活動を経て、昨年4月に「S級」公認審判員となりました。また昨年は、飯館村スポーツ推進委員としての長年の貢献により、県の表彰も受けています。「選手の成長する姿に喜びを感じる」と菅野さん。今後も大会を支える立場で、ますます幅広いご活躍を。



第3回区長杯にて。

### 二枚橋・須萱行政区のパークゴルフ大会

10月22日、二枚橋・須萱行政区のパークゴルフ大会『第3回20区区長杯』が開催されました。同行政区では、昨年11月に第1回を開催、今年度は7月に第2回を開催するなど、パークゴルフを通じたコミュニティ活動に力を入れています。



左は7月開催の第2回区長杯。



### 婦人会が美化活動と研修を実施

9月30日、飯館村婦人会(長谷川花子会長/前田)が、白石地区から村役場までの区間を歩きながら、「きれいな村であってほしい」と願いを込めて、美化活動を行いました。15人の会員が参加しました。また10月14日・15日には、宮城県南三陸・気仙沼方面への視察研修を行い、東日本大震災の津波被災地を見学しました。その後は会の親睦会を行い、会員同士の交流を深める楽しい時間を過ごしました。村婦人会では、新規会員を募集しています。



経産省へ出張販売したラカッセの佐藤雄紀さん。今回の販売は村に派遣されている経産省職員のコーディネートで実現しました。

### ラカッセの特製弁当を経産省で販売

11月9日、田舎レストランLaKasseの特製弁当が、経済産業省(東京都)で特別販売されました。牛肉の味噌漬けローストビーフや野菜のピクルス、ナツハゼの混ぜご飯など、飯館産の食材を中心とした献立で、70食が約5分で完売する人気ぶり。購入者へのアンケートでは「とても美味しかった」「お店に行ってみたい」などの高い評価をいただきました。



### 和気あいあいと「男性のつどい」

11月21日、交流センター「ふれ愛館」で『男性のつどい』が開かれました。孤立しがちな男性に集団での活動を楽しんでもらおうと、「相馬広域こころのケアセンターなごみ」(南相馬市)が、「あがべご訪問看護ステーション」や村役場などと協力して開催しています。今回はサンドイッチとケーキづくりに挑戦です。「生クリームを塗るのは初めて」「きれいにできたね」などと会話をしながら共同作業を楽しみました。完成品はおいしいコーヒーと共にいただきました。



タキ子さんと夫の誠一さん。右の写真が11月半ばに咲いたアジサイの花。

### 小春日和にアジサイの花

鳴原タキ子さん(長泥)から広報へ、花便りをいただきました。季節外れのポカポカ陽気にアジサイの花がほころんだそうです。早速川俣町の自宅へお邪魔すると、日差しを浴びて淡い色のアジサイが咲いていました。鳴原さん夫婦は、避難先の川俣町に3年前に自宅を建て家族で暮らしていますが、長泥には足しげく通ってきました。「景色も様変わりしたし家もないけど、やっぱり落ち着く。ふるさとなんだよ」。長泥の庭にもたくさんの花が咲いていたそうです。



### 「飯館電力」チャリティ募金で寄附

10月24日、『第4回飯館電力杯 村民ゴルフ大会』が開催され、参加者の皆さんから村へ寄附をいただきました。このゴルフ大会は、飯館電力株式会社(菅野宗夫社長/佐須)が主催し、伊達市霊山の「パーシモンカントリークラブ」で行われたものです。今年の参加者は34人で、大会の開催を通してチャリティ募金が行われました。寄附された2万2,734円は、「いいたてっ子未来基金」に積み立て、子ども達の教育支援に活用させていただきます。

## 消防訓練と防火パレードが行われました 令和5年秋季火災予防運動

11月12日、交流センター「ふれ愛館」南側の新田川周辺で「令和5年秋季全国火災予防運動消防訓練」が行われました。今回の訓練では、村内の無水利地区で大規模な林野火災が発生したという想定で、飯館村消防団による遠距離中継送水訓練を実施しました。

林野火災は、防火水槽や河川といった消防水利から火災現場が遠く離れていることが多く、その場合、消火活動に必要な水を現場まで運ぶため、消防団の保有している小型ポンプを一定距離で配置し、ホースでつなぎながら水を送る遠距離中継送水が必要となります。訓練によりその技術を習得することで、消防団員の技術力の向上と消防署との連携強化が図られます。

訓練終了後、消防団は防火パレードを行い、村内の無火災記録500日以上を継続するため、村内各地区で、焼却行為等による火災防止を呼びかけました。



小型ポンプによる揚水・中継、ポンプ車による放水などの消防訓練を実施しました。



防火パレード出発の様子。この日の訓練とパレードには消防団員74人が参加しました。

## 飯館村デジタルアーカイブ 一時中断していた公開を再開しました

『飯館村デジタルアーカイブ』は、飯館村の足跡を振り返る写真や映像を公開しているウェブサイト。昭和20年代から平成時代までの写真や映像が、ジャンルや年代ごとに整理されていて、それぞれに説明文もついています。村民をつなぐ“村のアルバム”として、全村避難中の平成27年に公開しました。

今年の3月から、飯館村ホームページの改修などに伴い、一時公開を中断していましたが、9月より再開しています。飯館村ホームページのトップ画面にリンクのバナーがあります。または『飯館村デジタルアーカイブ』で検索してください。スマートフォンから見ることもできます。



## 11月の村の動きと主なできごと

- 1日・福島県立医科大学保健科学部実習 高齢者体力測定(飯館村地域防災センター)
- 2日・行政区ヒアリング(村役場)
  - ・福島県議会議員選挙 告示
- 3日・つながるフェスタ(道の駅ふくしま)
  - ・FIRE(福島国際研究教育機構)座談会(村役場)
- 6日・7日・栄養教室「からだを整える!バランス食教室」(交流センター「ふれ愛館」)
- 9日・クリスマス寄贈教室(交流センター「ふれ愛館」)
  - ・行政区ヒアリング(村役場)
  - ・「ふくしま駅伝」飯館村チーム結団式・壮行会(交流センター「ふれ愛館」)
- 12日・福島県議会議員選挙 投票票 ※南相馬市・相馬郡飯館村選挙区は無投票
- 13日・防火パレード(交流センター「ふれ愛館」・村内各所)
  - ・長泥環境再生事業行政説明会(長泥「コミュニティセンター」)
- 15日・福島県立医科大学保健科学部 実習(「いたてホーム」)
- 16日・ゲートキーパー養成講座(「いちばん館」)
  - ・福島県原子力防災訓練(榎葉町他)
- 17日・第1回「第6次総合振興計画」審議会(村役場及びオンライン)
  - 18日・第60回黒商工まつり(東京都目黒区・目黒区民センター)
  - 19日・ふくしま駅伝(第35回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会)(白河市〜福島市)
  - 20日・令和5年度第3回行政区長・副区長会議(交流センター「ふれ愛館」)
    - ・行政区ヒアリング(村役場)
  - 21日・あぶくまもち商品PR新聞社訪問(福島民報社・福島民友新聞社)
  - 21日・22日・よい仕事おこしフェア(東京都江東区・東京ビッグサイト)
  - 22日・定例教育委員会(村役場)
  - 23日・八木沢・芦原地区農地中間管理事業 調印式(八木沢芦原多目的集会所)
    - ・二枚橋・須置地区農地中間管理事業 調印式(二枚橋会館)
  - 24日・復興庁 OBCラジオまつりふれあい広場2023(大阪府大阪市・大阪城公園)
  - 25日・行政ヒアリング(村役場)
  - 26日・「いたて冬まつり」冬の花火(交流センター「ふれ愛館」・「いたて村の道の駅までい館」)
  - 26日・第5回飯館YOKO発見!ツアー(長泥地区他)
  - 26日・28日・行政区ヒアリング(村役場)
  - 28日・令和5年度第3回文化財保護審議会及び研修会(富岡町文化交流センター学びの森他)
  - 29日・福島県立医科大学保健科学部 実習(「いたてホーム」)

## 震災前の村の風景をもう一度 街や暮らしを写した写真を募集します



「広報いたて」では、震災前の暮らしやなりわい、集落や街並みの写真を募集します。原発事故に伴う突然の避難が長期化したことにより変化を余儀なくされた光景を、皆様のご協力をいただきながら、さまざまな写真で振り返ることができればと考えています。お寄せいただく写真は、データでも、プリントした写真でもOKです。企画や取材の資料とさせていただきます。一部を紙面に掲載させていただきます。プリント写真は後日返却します。年末年始のお忙しい期間となりますが、ご家族と懐かしく写真を振り返りながら、応募をご検討いただければ幸いです。ご協力をよろしくお願いいたします。

- 〈募集内容〉
- 震災前おおむね10年間の村内の写真。街並み・集落・店舗・農地(農作業)・里山風景・イベント・仕事・暮らしの光景など、震災直前の飯館村の様子が分かる写真を募集します。
  - お名前・住所・電話番号をご明記ください。
  - 応募写真の内容を簡単に書いてください。

- 〈宛先〉
- 郵送 〒960-1892 福島県相馬郡飯館村伊丹沢字伊丹沢580番地1  
飯館村役場 村づくり推進課企画定住係「広報いたて」写真募集係
  - メール(データ送付先) kikaku@vill.iitate.fukushima.jp
  - 窓口受付 飯館村役場2階 村づくり推進課企画定住係

〈募集期間〉 令和6年2月2日まで

# 八木沢銅屋場製鉄遺跡

## 歴史の散歩道

塩や海産物を運ぶ人馬が行き交った奥州西街道(塩の道)。峠の険しい道を登り来た人々を迎えていたのが八木沢宿です。「八木沢銅屋場製鉄遺跡」は、旧八木沢宿のすぐ側にあります。「八木沢字銅屋場」というのは現在も使われている地名で、多量の鉄滓が出土することから、一定期間ここで鉄の精錬が行われていたと考えられています。鉄滓というのは、鉱石から鉄を精錬する際に出る不純物のことです。

遺跡が山間部に位置するのは、鉄を溶かす燃料となる大量の薪が必要だったため、粗鉄などを山間部に運び入れる方が効率的だったからと考えられています。村内では、八木沢地区の他にも蔵平地区で、同時代と思われる製鉄遺跡が確認されています。銅屋場製鉄遺跡近くの街道沿いには「六文字名号供養碑」が残ります。高さが2m以上もある石碑で、「南無阿弥陀仏」の6文字の他「宝暦七年」の年号や石工の名などが刻まれ、台座には「右原町」「左中村」の文字も見えます。また、村が平成元年に整備した塩の道の碑が「塩倉跡」「団子茶屋跡」など各所にあり、塩の道として栄えた奥州西街道の面影をしのぶことができます。

相馬中村藩が、岩手県南部野田地方から買入っていた鉄鉱石や粗鉄は、原釜や請戸港で陸揚げされ、牛や馬の背に乗せて領内各地に送られました。それらは運ばれた先で延鉄にされた後、農具などの鍛冶製品に加工され、集落に供給されました。

遺跡内では、鉄を溶かす燃料となる大量の薪が必要だったため、粗鉄などを山間部に運び入れる方が効率的だったからと考えられています。村内では、八木沢地区の他にも蔵平地区で、同時代と思われる製鉄遺跡が確認されています。銅屋場製鉄遺跡近くの街道沿いには「六文字名号供養碑」が残ります。高さが2m以上もある石碑で、「南無阿弥陀仏」の6文字の他「宝暦七年」の年号や石工の名などが刻まれ、台座には「右原町」「左中村」の文字も見えます。また、村が平成元年に整備した塩の道の碑が「塩倉跡」「団子茶屋跡」など各所にあり、塩の道として栄えた奥州西街道の面影をしのぶことができます。



遺跡内で地中から顔を出していた鉄滓。鉄滓は「てっし」の他「てっさい」という読みもあります。



八木沢銅屋場製鉄遺跡の入口。遺跡は平成23年3月に飯舘村指定文化財の指定を受けています。

交流センター内はクリスマスの雰囲気にも包まれています。図書ボランティアの方々に壁面の装飾や本の並び替えをしてもらい、その時の季節を楽しめるような工夫をしています。図書ボランティアの方々には、交流センター内の図書整理、図書の登録、いたて希望の里学園までの道のり、いたて希望の里学園までの道のり、いたて希望の里学園までの道のりにも積極的に取り組んでもらっています。



季節に合わせた本の並び替えや館内の装飾も楽しんでください

### ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

## いいたて 8 イノサル通信

### 見分けて対策! ~タヌキ、アライグマ、ハクビシン、アナグマ~

タヌキという動物を皆さんご存じだと思いますが、どのくらいはつきりとその姿を思い浮かべられますか?タヌキくらいの大きさの動物は何種類かいて、「中型哺乳類」と呼ばれています。見た目は似ていても、対策は異なりますので、見分けて、有効な対策ができるようにしましょう。

<p><b>タヌキ</b></p> <p>目の周りは黒い、尾は太く先が黒い。肉球4本指。痕跡▷1か所に大量の糞。被害▷雑食性で、基本的には地面から届く農作物等を食べる</p>	<p><b>アライグマ</b></p> <p>特定外来生物 ※1</p> <p>耳の縁は白い、尾はしましま。はつきりとした5本指。痕跡▷5本の爪痕が平行につく。被害▷木や柱をよじ登り、果樹等への食害や家屋に侵入する。</p>
<p><b>ハクビシン</b></p> <p>重点対策外来種 ※2</p> <p>鼻筋は白い、尾は細長い。肉球5本指。痕跡▷枝についたまま下からかじる。被害▷身軽でロープ等を渡り、果樹等への食害や家屋に侵入する。</p>	<p><b>アナグマ</b></p> <p>耳は小さく、尾は短い。5本指、爪が目立つ。被害▷イチゴ等の食害や小動物を食べるために農地等に穴を掘ることがある。</p>

※1 外来生物(海外起源の外来種)であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものが指定されている。 ※2 外来種の中で、甚大な被害が予想されるため、対策の必要性が高いもの。

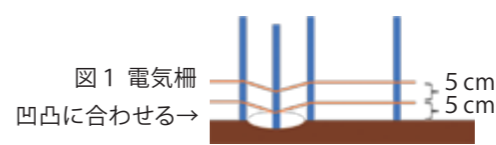
### 対策

- まずは どんな動物が相手でも出没や被害を減らすには、餌と隠れ場所を無くすことです。周囲の放棄果樹や廃棄作物の管理、やぶの刈り払い等を徹底しましょう。
- 農業被害 アライグマやハクビシンは登る能力があるため、農地への侵入を防ぐためには、電気柵を上手に使う必要があります。電気柵のみの場合、電線が鼻に当たるよう、地面の凹凸に合わせて高さを5cmと10cmにする必要があります。(図1)
- また、登らせてから感電させる中型哺乳類用の複合柵として、白落くん等があります。この場合、鳥獣用ネット等の上部に電線を設置するため、設置の難しさや草刈りの手間は軽減されます。(図2)特にハクビシン対策の場合、支柱やロープ等が柵をまたがないように注意しましょう。(下記に「白落くん」設置マニュアルQRコード)
- 家屋侵入 柱等に爪痕や泥がついている場所を探し、侵入口を塞ぎましょう。周囲に複数いる場合、捕獲しても侵入口がそのままだと、また侵入されてしまいます。

(参考) 白落くん設置マニュアル



埼玉県農業技術研究センターHP



イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する鉄谷さんからのお知らせです。



### 福島県避難地域鳥獣対策支援員

鉄谷 龍之 さん

平成31年4月から同支援員。令和3年から飯舘村の鳥獣対策に携わり、今年度から村の主担当。専門は野生動物管理・鳥獣被害防除。



## ふるさとの担い手の思いが形に たゆまぬ努力の結実に感動

第16回

# 杉岡 誠 村長の 愛楽故郷味

あいらくふるさとみ



初冠雪が見られた11月。厳しい冬の寒さが勇み足で訪れております。11月15日に「全国若手町村長会」が設立されました。私と同様ふるさとへの熱い思いからアイターンした方や元オリンピック選手まで、実に多彩な経歴の方がこの会の目的です。49歳以下で当選した全国の若手首長さんと本音で研鑽を積むのがこの会の目的です。熱い思いを交わし合い、あらためて「人口減少社会における持続可能性」や「住民の幸せの形」を考える好機となりました。今後、住民の皆さま同士交流にも発展させていきたいと思います。

19日は35回目となる「ふくしま駅伝」でした。後半8区からのオープン参加の中、子育てをしながら練習に励んで初参加となったランナーの方が53チーム中、区間33位の大健闘を見せてくれたこと、学園生はじめ全選手が激走を見せてくれたことに強く胸を打たれました。練習の成果を遺憾なく発揮してくださった選手の皆様はもちろん、来年に襷をつなぐ献身的なサポートをしてくださったご家族関係各位の皆さまに、深く御礼申し上げます。

23日には恒例となった「いいいたて雪つ娘かぼちゃ祭り」で初となるアイデア料理コンテストに参加し、とにかくアイデアが凄い！お料理として、「いいいたて雪つ娘かぼちゃのウニみたいなお寿司」を選ばせていただきました。「見るとウニの軍艦巻きですが、食すと雪つ娘かぼちゃのまるやかさと甘みが酢飯とよく合った「質よし、味よし、見た目よし」のメニューです。全国規模でのファンの広がりを実感するイベントとなりました。

また同日の夜は、図画倉庫の「めぐりあるきレストランヒカリノトリ」というアートイベントに伺いました。参加者が「観測者」となってアーティストが描く世界の中を探訪しながら「田舎レストランラカッセ」のお料理を味わうという、まさしく「リアージュ」を堪能するひと時となりました。

25日には「いいいたて冬まつり」に続いて、村の風物詩となった「イルミネーション点灯式」「いいいたて冬の火花」が行われました。多くの方々インスタグラムなどにその美しさを感動を投稿されていますので、ぜひご覧ください。

鈴木農園さんのプロバイオポニックス栽培の特色JASの認証取得という嬉しい報告にも恵まれました。ふるさとの担い手たる皆さまの努力の一つひとつが、新たな「ワクワク」を生み出し、実を結んでおられます。

2023年も残り僅かとなりました。12月もワクワクする楽しい日々を過ごして参りましょう。

### ■ひとのうごき

#### おくやみ

氏名	年齢	行政区
桑折 光 さん	81	上飯樋
赤石澤 ハツイ さん	91	草野
千葉 実 さん	73	前田
菅野 静子 さん	74	飯樋町
高橋 みつ さん	101	前田
菅野 博 さん	88	佐須
今野 征美 さん	74	飯樋町
菅野 キミ子 さん	82	大久保・外内
高橋 正道 さん	90	深谷

ご冥福をお祈り申し上げます

(10月21日から11月20日までに届け出のあったものを掲載)  
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。



ひとのうごき 令和5年10月31日現在

人口	今月 (前月比)	10月1日~31日までの人口動態
●男	2,371人(-6)	転入 4人
●女	2,344人(-10)	転出 13人
計	4,715人(-16)	出生 0人
世帯数	1,822戸(±0)	死亡 7人
		(住民基本台帳人口)



Thanks a lot!

## 飯館村地域おこし協力隊がつづる いいいたて DIARY

みなさん、こんにちは！  
最近はずっと寒くなりましたね。

今回は、改めて報告がございます。僕は12月をもちまして、協力隊を卒業いたします。なので、「いいいたてDIARY」もこれが最後となります。

ほんとあつという間な3年間でしたが、とつても貴重な体験ばかりでした。

今後も飯館村で活動していく予定ですが、仕事が変わるので、期待と不安でいっぱいです。

3年間、大変お世話になりました！  
ありがとうございました。



地域おこし協力隊 松尾 洋輝 さん

今月のライター

### 村民広報委員 ふじおさんの いいいたて 宝さがし

#### 第17回 二人の時間!



木漏れ日の陽の光が涼しげに射す秋の日に、今回は押口商店の菅野敬さん・皆子さん夫妻(関根・松塚)を訪ねました。玄関から茶の間の間仕切りの暖簾が高く長く見事で、見ると着物の江戸褌を利用した皆子さん手作りのものでした。水墨画や俳句も趣味の一つだそうです。

敬さんは店を継いで3代目だそうです。昔は地域の納税組合長や消防団、また発足当時の防犯協会長や村の商工会長なども務められたそうです。



震災後は二人で過ごす時間もできて、北海道旅行や四国八十八か所のお遍路参りもされたそうです。道中のお二人の楽しい会話がなんとなく聞こえてきそうな気がします。

「あ、んだ。ライオンズクラブで行ったドイツやハワイ、カナダも良かった!」と敬さんが話し、ナイアガラの滝の壮大な景色の中でカッパを着ながら遊覧船に乗った話などしてくださいました。心に残る思い出旅行だったろうと思いました。

旅行も含めてゆっくりとした時を過ごせるようになったのが、二人の人生の宝だと、薪ストーブに薪をくべながら語ってくれたのがとても印象的でした。





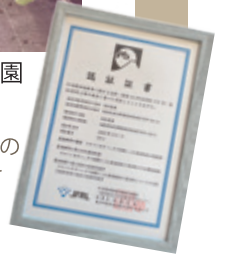
鈴木農園で新しい農業技術の研修会

水耕で有機質肥料を用いる技術のJAS認証

全国初!



鈴木さんと妻の美智子さん。右は鈴木農園に交付された「特色JAS」の認証証書。  
特色JAS：付加価値の高い特色あるつくり方の規格を満たす食品・農林水産品が認証を受け「特色JASマーク」の表示が認められます。



鈴木秀範さん（上飯樋）が夫婦で営む『鈴木農園』は「農研機構」が開発した「有機質肥料活用型養液栽培（プロバイオポニックス栽培）」でミニトマトを栽培していて、今年6月に日本農林規格の「特色JAS」の認証を受けました。

村で農業を再開するにあたり「水耕栽培でなおかつ味にこだわりのおいしいトマトをつくりたい」と考えた鈴木さん。検討を重ねてたどり着いたのがこの技術の情報でした。

水耕栽培（養液栽培）では有

機肥料が使えないという常識を覆す新しい技術。鈴木さんは、開発者である農研機構の篠原信さんに連絡を取り、篠原さんが会長を務める「有機質肥料活用型養液栽培研究会」に加入。村の事業を活用して設備を整えました。

そして「特色JAS」の認証を取得した今年、11月に研究会の総会と研修が福島市で開催され、全国各地から集まった参加者が鈴木農園を視察。鈴木さんの研究と実践に、注目が集まりました。



作業スペース（上の写真）や育苗ハウスも公開。参加者の質問に答えながら栽培の手法を解説する鈴木さん。



ミニトマトのハウスにて。篠原会長（右端）も「目からウロコの発見がある」と鈴木さんの実践をくまなく視察。

震災前の村の写真を皆さんから募集します

「広報いいたて」では、震災前の暮らしやなりわい、集落や街並みの写真を募集します。原発事故に伴う突然の避難が長期化したことにより変化を余儀なくされた光景を、皆様のご協力をいただきながら、さまざまな写真で振り返ることができればと考えています。お手持ちの写真を2月2日までにお送りください。応募先など詳しくはP26をご覧ください。

〈編集後記〉

涼しげな季節があったというまに過ぎ去ってしまった11月。今年もふくしま駅伝には、故郷を想う心が集まるとともに、故郷の壁を越えて声援を送る姿がたくさんありました。歴史ある飯館村を背負って全力で挑んだ選手の皆様、本当にお疲れ様でした。そして、今年も感動をありがとうございました。（菅野）

1年を振り返って思いますが、飯館村をフィールドに、あるいは心の拠り所として、たくさんの方が想いを語り行動を起こしていただく。帰村した人も移住した人も、避難先で暮らす人も、互いの気持ちに寄り添いながら共に未来をつくらうとして、いること。そして、広報紙に掲載しきれないもつとたくさんの方の動きや試みも…。多様な歩みの力強さを確かに感じた1年でした。（星）